

犬は、野生のオオカミが家畜化されたもので、その習性はペットの犬にも引き継がれています。犬をしつける際は、そのような犬の習性を念頭に置かなければなりません。

「よく吠える」「飼い主を咬む」などの問題行動には必ず理由があり、多くは飼い主のしつけ方に原因があります。

実は、犬のしつけとは、犬の行動を変えることじゃなく、飼い主の意識を変えることなんです。

例えば、飼い主が頼りない行動をとると犬は家族の中でリーダーになろうとし、困ったことになります。日々の生活の中で主従関係を意識したしつけを行うことが大切です。



福岡市動物愛護管理センター
東部動物愛護管理センター
動物愛護業務員
今井 裕司 さん

しつけの基本は、「成功＝ほめる」「失敗＝無視」です。失敗して怒っても、犬はなぜ怒られているのかほとんど理解しません。

それよりは、成功したときにほめてあげると、犬は「これをしたらほめてもらえる」と思うようになります。

15年近く生きる犬と楽しく過ごせるかどうかは、正しいしつけができるかに左右されます。犬や猫を飼う前に、そして飼った後でも、犬や猫の習性をしっかりと勉強し、正しいしつけを学ぶことは、飼い主の義務です。

福岡市動物愛護管理センターでは、しつけ方相談を受け付けています。お気軽にお問い合わせください（問合せ先は12ページ）。

しつけとは、「犬の行動を変えること」「ではなく、飼い主の意識を変えること」です。



▲市センターでトレーニングされている犬たち。【写真左】野良犬だった所を保護された「ダニー」。現在は各種講習会などのモデル犬として活躍。【写真右】「飼い主を咬んだから」という理由で持ち込まれた「アリアケ」。「咬まないようにしつけていないだけ」と今井さんは話す。

奪われるために
生まれる命 
犬と猫の殺処分を減らす



interview 狂犬病の予防接種は必ず受けましょう

狂犬病の発症を防ぐには予防接種しかありません。飼い犬に予防接種を受けさせないことは、犬だけでなく、人も危険にさらす行為です。室内飼い・室外飼い問わず、予防接種は必ず受けさせてください。

狂犬病の発症を防ぐには予防接種しかありません。飼い犬に予防接種を受けさせないことは、犬だけでなく、人も危険にさらす行為です。室内飼い・室外飼い問わず、予防接種は必ず受けさせてください。

狂犬病は、狂犬病ウイルスの感染によって起こる病気です。発症した場合、死亡率はほぼ100%で、世界中で年間5万人以上が死亡しています。日本では昭和32年を最後に発生がありませんが、平成25年に日本と同じく海に囲まれた台湾で狂犬病が発生しました。日本でもいつ再発生してもおかしくありません。ところが、日本の狂犬病予防接種率は、登録された犬で71.6%（平成26年度）。未登録の犬を含めた実際の接種率は40%を切るとも言われています。



浜野動物病院
(飯塚市横田)

濱野 一秀 院長

※狂犬病予防接種は、動物病院や年に1回の集団接種で受けることができます。